

健診システム

保健管理センター副所長 前田健一

はじめに

ICカードを用いた健診システムを来年度から導入予定で、これについて今回は紹介したいと思います。本年度から学生証はICチップが組み込まれたカードになりました。



このカードは学生番号やカード発行期日が記録されているだけでなく他にデータを記録したりすることができ、記録できる容量は約1000文字程度です。そこで健診機器(身長体重計、血圧計、視力計、尿酸検査器)とパソコン、ICカードリーダーライタを接続し、健診機器からの測定データを自動的にICカードに記録するシステムを導入し、健診の

迅速化とデータ処理の省力化を考えました。

現在の健診システム

現在の健診はどのように行われているか説明します。まず健診伝票に学生番号氏名や既往歴、現在の体調などを記入した後、健診を開始します。それぞれの測定部門では測定機器のデータをこの健診伝票に手書き記入します。レントゲンや血液検査の受付ではレントゲン番号や検体番号の記入を行います。すべての検査が終了した後、内科健診を行い、診察所見を記入します。以上で皆さんの健診は終わりですが我々にはこれから大変なデータ処理が残ります。

健診伝票のデータはデータ処理メーカーに依頼しデータ入力してもらいます。伝票の入力を依頼する前にデータ記入漏れや間違いおよび不明確な文字の書き直しなど1枚ずつチェックをしていますがそれでも返ってきたデータには結構たくさん入

力間違いが見つかります。また学生番号に記入ミスがあった場合は健診結果がまったく別人のものとなってしまいますのでこうしたチェックも重要です。

現在のデータベースはアクセス(マイクロソフトのデータベースソフト)を用いて我々が2年も3年もかかって少しずつ作り上げたものです。これに外注データを変換して移行する手続きがあります。実はこの作業も複雑で毎年苦労しています。

さらに血液検査の結果は検査器からのデータファイルを変換して入力します。こうした作業を経てやっと証明書等の発行ができるデータベースが完成します。さまざまな手続きを踏む必要があるため使用可能となるまで2〜3週間はどうしても必要となります。

新健診システム

まず健診機器からの測定データはパソコン(PC)を介してICカードに書き込まれます。すべての検査が終了するとICカードに記録されたデータはデータ回収用パソコン(サーバ)でデータベースに転送します。

これにより健診のデータベースが自動的に完成することになり現在のシ

ステムのように人為的ミスやデータのチェック作業およびデータ変換入力作業から開放されることになり、さらにこのシステムはデータをICカードで運ぶためパソコンをネットワークでつなぐ必要がなくシステムを簡素化できます。しかし、このシステムではカードを忘れた人への対応や未受診項目があった場合や再検査データの登録方法をどうするか等、新しい問題点も発生しています。いろんな問題点に関してまだ検討中の部分がありますが、出来るだけスムーズな健診ができるシステムに仕上げたいと思っています。

このシステムにより健診の混雑はかなり解消されるのではないかと期待していますが、健診機器の不足やシステムのトラブル等心配の種はつきません。今年はまだ診察所見や既往歴等の記載に関して自動化できていないため、健診伝票がなくなるところまではいきませんが、できるだけ早く伝票が不要になるようなシステムを実現したいと考えています。